

知っておきたい地域のこと

千厩ガイドブック

令和4年9月



編 千厩地区まちづくり協議会

目 次

はじめに	3
千厩の沿革	4
おいたち	4
昭和の合併	4
平成の大合併	5
千厩の位置と概況等	6
位置	6
面積	6
海拔	6
地勢	6
気象	6
生活圏	6
世帯数・人口の推移	7
千厩の地名（五十音順）	8
千厩の行政区域	8
俗称または通称として使用されている主な地名	9
主な史跡、神社仏閣、その他	10
千厩の地名発祥の地	10
千厩城	10
傳龍山大光寺	11
松澤神社	12
金山一機集結の地	12
六道塚	13
夫婦石	13
八幡神社	14
千厩酒のくら交流施設	15
せんまや街角資料館	15
熊谷美術館	16
千厩出身の著名な芸術家	17
熊谷登久平（画家）	17
白石隆一（画家）	18
金野照夫氏（彫刻家）	19
千厩町（千厩、小梨、奥玉、磐清水）の産業	21
農業の概要	21
昭和の時代は	21
平成の時代は	21
令和の時代は	21
商業の概要	22
地場産業の概要	23
誘致企業・進出企業の概要	23
千厩町の産業統計の主な項目と数値	23
千厩の春華秋冬（イベントなど）	25

はじめに

私たちは、この千厩に暮らし、よりよい地域をつくるため、お互い協力をしながら活動をしています。

よそからこの千厩を訪れた方々から「千厩のことを教えてください」とたずねられたとき、応えてあげることができるでしょうか。

多くの方は、知っているいるようで、あまり詳しく知らないということが本音ではないでしょうか。できれば、千厩の歴史、魅力、暮らしなど、大まかに説明できるようにしたいものです。

本書は、このようなことを大まかにまとめたものです。編集にあたっては、公表されている関係文献、ホームページの掲載記事などを出典の根拠としていますので、各項の説明文については、原文を基本として掲載しました。

なお、今後は必要な資料を定期的に更新するとともに、皆さまのご意見を本書に反映できるよう努めてまいります。

本書が地域の皆さまにとり、少しでもお役に立てば幸いです。

令和4年9月

千厩地区まちづくり協議会
会長 千葉隆生

千 厩 の 沿 革

おいたち

往古の風土記によれば、「松澤の郷と申し秀衡公御代馬千匹飼立、是厩数千頭あり、夫より千厩と傳候」とある。また、一説に「後令泉帝の永承年中、源頼義、頼家、安部頼時、貞任等討伐の砌軍馬千余頭を繫留せり」とある。いずれが真なるや今日確証する文献がないのを遺憾とす。

奥州の豪族安部が滅亡して、藤原栄華の代を過ぎ、葛西氏の治下にあった。葛西氏が滅亡後は木村時貞を経て、天正19年(1591)春、伊達政宗の所領に属し、中世の宮内氏の知行となり、再び伊達家直隸として王政維新に及び、伊達家が朝敵の汚名を受け暫時安藤対馬の隸下に属し、大政奉還廢藩置県となった明治2年(1869)8月に胆澤県に、明治3年(1870)9月に登米県に、明治4年(1871)11月に一関県に、明治4年12月に水沢県に、明治8年(1875)11月に磐井県じに而して、明治9年(1876)4月に岩手県に属し東磐井郡に編入せられ、明治17年(1884)に千厩ほか四カ村(奥玉、清田、小梨、磐清水)の戸長役場が置かれ、明治22年(1889)に即ち市町村制の実施により、各々分離独立して千厩村となり、明治31年(1942)4月に町制を布き千厩町と称す。

大正12年(1923)2月に郡制廃止となり、昭和17年(1942)4月に県の出先機関として郡単位の地方事務所制度の制定をみたので、この時、東磐井地方事務所が本町に設置された。昭和27年(1952)10月に地方事務所機構の内容が改正され、その権限等の変革があった。〔出典：昭和28年度(1953年)千厩町町勢要覧〕

昭和の合併

昭和28年(1953)当時、全国で市町村は約1万あった。政府は、市町村の事務増加の問題を打開するために、「町村合併促進法」を制定し、人口8000人を目途に市町村合併を進めた。これが「昭和の大合併」である。

これを受けて、昭和31年(1956)9月30日、千厩町、奥玉村、小梨村、磐清水村

の一町三カ村が合併して新「千厩町」と改称した。千厩地区の住居表示は「東磐井郡千厩町千厩字〇〇」と表記することになった。

平成の大合併

平成 11 年（1999）から政府主導で行われた市町村合併。自治体を広域化することによって行財政基盤を強化し、地方分権の推進に対応することなどを目的とした。市町村合併特例新法は平成 22 年（2010）3 月末に期限切れとなることから、平成 17 年（2005）前後に最も多く合併が行われた。これが「平成の大合併」である。

このような流れの中で、平成 17 年（2005）9 月 20 日、一関市、花泉町、大東町、千厩町、東山町、室根村、川崎村の一市、四町、二村が合併して新「一関市」となった。千厩地区の住居表示は「一関市千厩町千厩字〇〇」と表記することになった。

なお、一関市は平成 23 年（2011）9 月 26 日、藤沢町と合併し現在に至る。

千 厩 の 位 置 と 概 況 等

位置 一関市役所千厩支所の位置（一関市千厩町千厩字北方 174 番地）
東経 141 度 22 分 北緯 38 度 53 分

面積 15.81 平方キロメートル
東西に 6.1 キロメートル 南北に 4.5 キロメートル

海拔 最高点 346.3 メートル、最低点 76.0 メートル

地勢 北東には標高 895.4m の室根山があり、ここから西方と南方に連なる 300～400m の山々に囲まれた三角状の盆地である。室根山を源として北上川に注ぐ一級河川千厩川が地区内の中央部を東西方向に流れている。この川の流域に耕地が開けているほか、ゆるやかな起伏が多く、その間に耕地、宅地が点在している。

気象 気候は、太平洋気候区内陸盆地型気候に属し、県内では比較的温暖で積雪深も 20cm を越えることはまれである。平成 25 年の年間降水量は 1,142 ミリ、年平均気温 10.5℃ で、令和 2 年の年間降水量は 1,211.5 ミリ、年平均気温 11.4℃ となっている。気象庁千厩観測所の主な気象データのうち観測史上の第 1 位は次のとおり。

要素名／順位	1 位 (観測年月日)	2 位 (観測年月日)	3 位 (観測年月日)
日 降 水 量	135mm (1986/8/5)	132mm (2022/7/16)	122mm (2002/7/11)
日最大 1 時間降水量	59mm (1982/8/21)	49.5mm (2011/9/1)	47mm (2020/7/22)
月 降 水 量	484mm (1998/8)	442mm (2003/7)	406.5mm (2020/7)
年 降 水 量	1413mm (1991)	1387mm (1990)	1384mm (1998)
日 最 高 気 温	36.4℃ (2019/8/6)	36.2℃ (2015/8/5)	36.1℃ (2020/8/11)
日 最 低 気 温	-18.3℃ (1977/1/2)	-16.9℃ (2021/1/9)	-16.9℃ (1977/1/3)
日最大風速・風向	15.0m/s 南南 東 (2012/4/3)	13.2m/s 西 (2020/3/20)	13.0m/s 西北西 (2004.11/27)
日最大瞬間風速・風向	26.0m/s 南 (2012/4/3)	24.7m/s 西北 西 (2020/3/20)	24.5m/s 西北西 (2021/2/16)

生活圏 国道 284 号線を通じて西の一関市中心部、東の気仙沼市の双方に車で 30 分の位置にある。旧東磐井地方における行政、経済、教育、文化、医療等の中心地として発展し今日に及んでいる。

平成 17 年の市町村合併後は、ハローワークなどの撤退や県の出先機関が縮小されたが、商業やサービス業など経済活動面では独自の圏域を確立している。

また、県立千厩病院をはじめ医療施設には比較的恵まれ広域医療の中心となってい

る。

集落の配置は、市街地を取り囲むように山間部には多くの散在集落が位置し、各集落は市街地から放射状に延びる道路によって市街地と密接につながっている。

文教施設等は千厩小学校、千厩中学校、県立千厩高等学校、県立千厩高等技術専門学校及び両磐地域職業訓練センターがあり、周辺地域からの通学者も多い。

世帯数・人口の推移

年 月	昭和 22 年 10 月	昭和 27 年 7 月	昭和 48 年 1 月	平成 25 年 3 月	平成 28 年 3 月	令和 3 年 8 月	令和 4 年 4 月
世帯数	1,174	1,254	2,040	2,473	2,453	2,359	2,381
人 口	6,527 人	6,894 人	7,577 人	6,232 人	5,978 人	5,360 人	5,304 人

千厩の地名（五十音順）

あ	いしどう いわま うめだ 石堂、岩間、梅田
か	かねやまさわ かまい だ かみきろく かみこまば かみのだ きたかた きたのさわ くさいざわ くぼた こまのさわ 金山沢、構井田、上木六、上駒場、神ノ田、北方、北ノ沢、草井沢、久保田、駒ノ沢
さ	さかいだ したきろく しちこまば しんざん 境田、下木六、下駒場、新山
た	たけはら つちはし たてやま とおのさわ とば 竹原、土橋、館山、遠ノ沢、鳥羽
な	なかがみ なかきろく なかこまば にしこだ にしなざわ 中上、中木六、中駒場、西小田、西中沢
は	ひがしこだ ひがしなざわ ふるがくち 東小田、東中沢、古ケ口
ま	まおう まえだ まち まちうら みこのさわ みやしき みやた 摩王、前田、町、町浦、神子ノ沢、宮敷、宮田
や	やつおさわ よっかまち 八ツ尾沢、四日町
わ	わさや 脇谷

千厩の行政区域

行政区名	区域(一関市行政区及び行政区長に関する要綱の規定)	当該自治会名
千厩 1—1 区	千厩字八ツ尾沢、千厩字駒ノ沢、千厩字境田の一部、千厩字久保田の一部、千厩字脇谷の一部、千厩字北方の一部、千厩字町の一部、千厩字町浦の一部	1—1 区自治会
千厩 1—2 区	千厩字神ノ田、千厩字脇谷の一部、千厩字町浦の一部、千厩字摩王の一部、千厩字古ケ口の一部、千厩字館山の一部	1—2 区自治会
千厩 1—3 区	千厩字境田の一部、千厩字久保田の一部、千厩字北方の一部、千厩字町の一部、千厩字町浦の一部、千厩字館山の一部、千厩字摩王の一部	新町地区自治会
千厩 2—1 区	千厩字北方の一部、千厩字町の一部、千厩字町浦の一部、千厩字館山の一部	第三町内自治会
千厩 2—2 区	千厩字宮敷の一部、千厩字四日町、千厩字前田、千厩字館山の一部、千厩字石堂の一部、千厩字下木六の一部	2—2 区自治会 松ノ木沢自治会 (前田の一部)
千厩 2—3 区	千厩字宮敷の一部、千厩字宮田の一部、千厩字構井田の一部、千厩字石堂の一部、千厩字下駒場の一部	2—3 区自治会
千厩 3 区	千厩字草井沢、千厩字宮田の一部、千厩字宮敷の一部、千厩字西中沢、千厩字東中沢、千厩字金山沢	中沢自治会
	千厩字構井田の一部、千厩字上駒場、千厩字中駒場、千厩字下駒場の一部	駒場自治会
千厩 4 区	千厩字石堂の一部、千厩字北ノ沢、千厩字岩間、千厩字鳥羽、千厩字下駒場の一部	北ノ沢自治会
	千厩字下木六の一部、千厩字中木六、千厩字上木六	木六自治会
千厩 5 区	千厩字古ケ口の一部、千厩字新山、千厩字土橋、千厩字中上、千厩字神子ノ沢、千厩字竹原、千厩字摩王の一部、千厩字下木六の一部千厩	神子ノ沢自治会
	千厩字梅田、千厩字西小田、千厩字東小田、千厩字遠ノ沢	小田梅田自治会

俗称または通称として使用されている主な地名

名 称	おおまかな位置	行政区域
あさひちょう 旭 町	白山橋から館山橋に至る町浦の通り	千厩 2—1 区
あたご 愛宕	愛宕児童公園の周辺	千厩 1—1 区 千厩 1—2 区
さんこうだい 山仰台	石堂地内の県立千厩高校の敷地一体。千厩高校は県立移管前は郡立蚕業学校であり、蚕を山に呼び替えた。	千厩 4 区
しんまち 新町	岩手銀行千厩支店前から千厩地区合同庁舎入口に至る国道 4 5 6 号の通り	千厩 1—3 区
たまち 田町	千厩地区合同庁舎入口から愛宕児童公園前に至る国道 4 5 6 号の通り	千厩 1—1 区
とうえいちょう 東栄町	千厩駅通りの千厩病院入口交差点から構井田交差点に至る市道及び夫婦石前に至る国道 4 5 6 号の通り	千厩 2—3 区
のうきょうだんち 農協団地	前田の南端で市道千厩矢越線の西側の分譲地	千厩 2—2 区
はぎのもり 萩ノ森	J R 大船渡線千厩駅の北側の地域、萩の森団地は県立千厩病院南側の分譲地	千厩 3 区
まつのきさわ 松ノ木沢	前田の一部で千厩市民センター東側の沢沿いの地域	千厩 2—2 区
みやしき 宮敷ニュータウン	宮敷の一部で介護老人保健施設やまゆりの北側の高台の分譲地	千厩 2—3 区
みゆき通り ^{とお}	せんまや酒の蔵交流施設入口の向いから愛宕児童公園の前に至る通りでかつては飲食店が立ち並ぶ歓楽街	千厩 1—1 区 千厩 1—3 区
もとまち 本町	四日町橋から岩手銀行千厩支店前に至る国道 4 5 6 号の通り	千厩 2—1 区
ゆうひ 雄飛が丘	構井田と下駒場にまたがる旧千厩中学校の敷地。東日本大震災後は気仙沼市の仮設住宅が設置され。現在は、敷地の一部に岩手県復興住宅が建てられている。	千厩 3 区

主な史跡、神社仏閣、その他

せんまや ちめいはっしょう ち
千厩の地名発祥の地 (千厩字東小田 290 番地先)



奥州平泉が栄える以前の天喜 5 年(1057 年)源頼義・頼家父子が安部貞任を討つため、奥州に出向き、黄海の地で決戦に及んだ。世に言う前九年の役である。

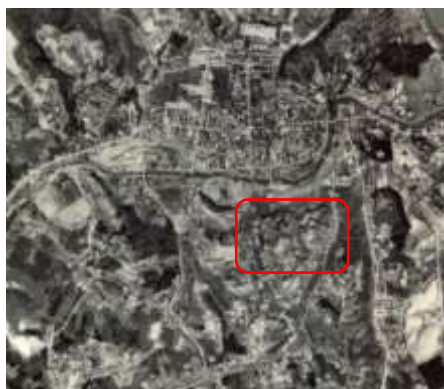
その数年後、川崎の柵に立て籠る安部軍の将 金為行を攻撃するため、義家がこの地に陣を敷き雨露を凌ぐこの岩窟に千厩の軍馬を繋いだと謂れている。

近年まで岩肌に残っていた馬の蹄の跡は、義家の愛馬のものと語り伝えられている。この岩肌の蹄の跡は、厩として使用された岩窟とともに新道開設工事のため取り壊されたが、千厩の軍馬を繋いだ跡として千厩地名発祥の地となっている。

「平泉藤原氏 この地に馬千頭を飼育せるにより 千厩と称す 源義経名乗馬 太夫黒は当地立として有名なり」

【出典：令和 3 年 7 月改修、千厩地名発祥の地保存会 解説板ほか】

せんまやじょう
千厩城 (別称は茶臼館、時代は中世、所在地は千厩字館山 50 番地周辺)



本郭は、千厩体育館・千厩市民センターの建つ場所である。昭和 44 年に千厩体育館建設による造成工事により、削平され失われている。二の郭は、体育館西側の高台である。この一角と館山公園の間に僅かに旧地形が残る。旧千厩町の町道工事関連の遺構確認調査では堀立柱建物跡・溝跡が確認された。詳細調査は行われていない。三の郭は、現在の館山公園のある丘陵と推定されるが、地上観察で明瞭な遺構は確認しがたい。

規模は東西約 300m、南北約 450m、立地・形式は丘陵、連郭式である。現状は公共用地、宅地、畑などである。城主は金野右馬丞(仙台領古城書上)である。

千厩城のほか、中沢館(時代は中世、所在地は千厩字東中沢)、折戸館(時代は中世から近世、所在地は千厩字下駒場)、木六館(別称は黄鹿館、時代は中世から近世、所在地は千厩字上木六)など計 11 か所が確認されている。

【出典：平成 11 年 3 月、千厩町史、第 1 巻 自然・歴史特別編】

傳龍山大光寺 (千厩字宮敷 89 番地)



千厩には二つの大光寺がある。一つは宮敷で、もう一つは東中沢で共に傳龍山の同号である。宮敷の大光寺は寛平元年(889 年)の開山で真福寺と称し、天台宗であったが、応永年間(1394~1427 年)に曹洞宗に改めたと伝えられている。

本山は大和国(奈良県)宝蛇山補岩寺で、千厩字中沢の大光寺を末寺とし、寺内の秋葉社、薬師堂の別当を兼ね、南朝年号、正平 7 年(1352 年)銘の雲板があった(現在所在不明)。この雲板は、「宮城県史 17」によると「松沢郷真福寺正平七壬辰八月二十二日沙弥明本」と刻銘がある。

同号同名のニケ寺が存在する理由については、大光寺由来(佐藤賢右衛門氏蔵)によると、宮敷の大光寺は葛西家臣金野家の菩提寺であったと思われるが、その滅亡後、慶長年間(1596~1614 年)の、伊達政宗の家臣に対する知行替によって東中沢が大光寺となり、千厩村を知行することになった宮内氏により宮敷は金竜院となった。しかし、東中沢の大光寺は同じ村にあった真言宗南昌院と論争をおこし廃寺となった。この時、大光寺の御位牌什物等を預かった豊後家中遠藤備前の子正吉代に再興を願い出て許された。

宮敷の金竜院は、その後、千厩村の知行主の交替により松岩寺と改名された。

松岩寺は、正保年間(1644~1647 年)に千厩村が蔵入地となった頃、再び大光寺となった。この時、東中沢の大光寺は廃寺となるはずだったが、存続運動により宮敷大光寺の隠居寺として残る末寺となったが、それぞれ独立した寺として本末関係が成立、山号寺号とも全く同じに称するようになった。

宮敷の大光寺の山道入口には石門(黒門)があり、当山二十三世石淳の代、明治 40 年(1907 年)4 月、石工金野恵治施行とある。その周辺には、十三の地藏様をはじめ、供養塔が立ち並んでいるが、最も古い記年銘のものは、天保 8 年(1798 年)建立の馬頭観世音である。

山道の石畳を進み山門に入る。そこに掲げてある扁額には「傳龍山」と、また本堂の堅額「祈祷」と雄渾な筆蹟が書かれている。



石段を登りつめ境内に入り、正面に本堂があり西側に薬師堂を配し、ここに岩手県指定の文化財「木造薬師如来立像」が安置されている。ほぼ同期の作とみられる不動明王立像も安置されている。応永年中(1394~1428 年)の作と見られる木造聖観音座像もある。前二者は、共に一木造りで、特に薬師如来立像は、均整のとれた姿勢で温和な容貌は美術的にも高く評価され、その法衣の裾模様に見える丸紋は、藤原時代の痕跡を残し、浄法寺にある天台寺の吉祥天像とともに、平安の紋様研究の上に貴重な資料とされている。

御本尊である「釈迦如来」は木造坐像で、御長壺尺五寸である。寺は三度火災になったため、古い什宝、古記録等は失われている中で、過去帳と共にその災を免れたものである。

(出典：平成 5 年 3 月、千厩町史第三巻、近世 2)

松澤神社 (千厩字前田6番地)



後柏原帝の御代、永正年間(1504～1520年)葛西家の臣金野土佐が奉斎す。

明治元年(1868年)太政官公布により神仏混交分離がなされ、明治8年(1875年)松澤神社と改称、村社に列格。同時に愛宕神社、八幡神社を合祀する。

明治28年(1895年)弥栄神社、八雲神社を合祀。さらに大正10年(1921年)秋葉神社を合祀。昭和27年(1952年)宗教法人松澤神社となる。

往古、八幡太郎義家が安倍貞任征伐の折、八幡神社を勧請、その後八幡神社を移し白山権現を奉斎せり。

伝えて言う紀州熊野権現の別当正覚坊の娘、神子沢に熊野大神を祀り住せしある一夜、白山権現の御光臨の霊夢を蒙り竹群の中より御神体を奉戴せりという。後に白山権現を現在地に移し奉る。

さらに、千厩郷の永沢家の下女お白が鳩となって飛翔し、神子沢に降臨せりと伝えられている。その時、竹の葉で眼を損いし故に千厩の里人は両目均等ならず、そして竹の生育もかなわずと伝えられる。

【出典：令和4年せんまや里山塾「郷土の歴史を学ぶコース」配布資料】

金山一機集結の地 (現在の松澤神社)



奥州平泉の時代から産金地帯であった当地方は、天正18年(1590年)の奥州仕置によって葛西氏が滅ぼされ、天下は名実ともに太閤秀吉の時代となる。

秀吉は、金堀りの許可証(御本判)を発行し、文禄3年(1594年)10月、年1回の産金の税を3回とするため、大橋八蔵・西村左馬助・鯉江権右衛門をこの地に差し向けた。

そのため、東山周辺の金掘り子三千人はこれを不服とし、強訴のため、白山堂に諸道具を持ちより集結し一揆を起こした。

その時、金山肝入白石十郎左衛門と及川十郎兵衛は、要害を築き、三人の上使をかくまい、岩出山城に救援を要請した。その援軍として代官黒木肥前が駆けつけ、首謀者は捕らえられて即刻撫で斬り、組頭38人は見せしめのため磔、処刑され程なく鎮定した。ところが、この一揆の黒幕は伊達政宗であると、葛西浪人新城又三郎が浅野長政に直訴した。

このため、白石、及川の両名は伏見まで証人として呼び出され、命がけで弁明することになった。

太閤秀吉に謀反ありと疑われた伊達政宗は、窮地に立たされ、結果如何では伊達家存亡にかかる事件へと発展した。

【出典：令和4年3月、一関市観光協会千厩設置の現地解説板】

六道塚 (千厩字 21 番地付近)



この付近は、市街地の国道 284 号摩王交差点から国道 456 号を南進し摩王坂を登る最初の峠のあたりにあり、通称六道長根と呼ばれている。また、この一帯は葛西氏の時代、金野氏の居城千厩城の搦手にあたっている。廃城間もない、文禄 3 年 (1594 年) 金山の堀子三千人が白山堂 (現在の松澤神社) に集まり一揆を起こした。この時、御本判大肝入、白石十郎左衛門は伊達家に支援を求め、黒木肥前宗元を侍頭とする鎮圧隊が、一揆の頭目 38

人を捕らえ、即刻見せしめのため十二丁の柱を立て礎にした。六道塚は、この時四つ塚を築いて、堀子たちの屍を埋めた所とあり、その塚の大きさは、安永 4 年 (1775 年) の千厩村風土記御用書出によると次の記載がある。

- 一 高さ五尺一寸 廻り五丈三尺
- 一 高さ三尺 寸 廻り一丈八尺
- 一 高さ三尺一寸 廻り一丈三尺
- 一 高さ六尺七寸 廻り十丈

【出典：平成 15 年 11 月、千厩史談会設置の現地解説板】

夫婦石 (天王山公園 千厩字石堂 19-2 先)



天王山公園入口にある男性を象徴する天然御影石。その周囲は 10 メートル余り、高さは 5 メートル余りの巨石です。隣には接するに相応しき女性を象徴する石が寄り添い、その配置の妙は他の追隨を許さない、まれに見る景観です。

【出典：一関市観光協会公式ホームページ】

夫婦石の由来

太古北の沢、天王山を挟んで流れる大河弓手川の激流は土砂を侵食し、この地に花崗岩から成る巨大な男女両性の象徴が奇しくも出現した。

神道も仏教もない時代この自然の偉大な造形に我々の祖先は眼をみはり崇敬の念をもって神として祀った。



雄然たる龍頭は列強なる陽茎に支えられ天地正大の氣、この地に発する観あり、男石の後に日本の美風を堅守し豊潤にして慎ましやか女石は谷間の白百合の如く万人の感動をよぶ。

この赤裸々な自然の成せる好一对の象徴は蓋し稀有にして本邦一の景観である。

【出典：千厩町観光協会設置の現地解説板】

八幡神社 (千厩字北ノ沢 142-2)



天喜年中(1053～1057年)、源義家(八幡太郎と称す)は夷族の長安部貞任征討の節、千厩邑小山(現在の松澤神社)に三夜宿営、このとき土地の人々は八幡大神は源氏の氏神であったところから、源氏の当地への進攻に鑑みるとき、八幡大神を祀ることはやむを得ないと勧請したもの。

永正年中(1504～1520年)、葛西家臣金野土佐、八幡宮を小山から北ノ沢へ遷座する。

明治8年(1895年)、明治維新による国家神道行政により、八幡神社は村社松澤神社に合祀される。

八幡神社本殿は、明治34年に現在の松澤神社から移されたといわれています。創建は、建築様式などから江戸時代初期と推定されています。本殿の大きさは、間口1.3m、奥行きは身舎0.97m、ひさし約0.6m、高さ約3.0mとなっています。様式は、正面の柱間が一間の長さ、屋根が前方にふきおろされた「一間社流れ造り」と呼ばれ、正面の扉には唐草模様が描かれています。

昭和59年(1984年)2月9日、八幡神社本殿が有形文化財として千厩町教育委員会から指定される。

平成2年(1990年)5月1日、八幡神社本殿が有形文化財として岩手県教育委員会から指定される。

【出典：平成13年3月、八幡神社文化財保護協会編、八幡神社史】

千厩酒のくら交流施設 (千厩字北方 134)



千厩酒のくら交流施設は、国登録有形文化財「横屋酒造・旧佐藤家住宅」を活用した観光文化交流拠点施設です。

施設内には明治末期から大正時代にかけての「ハイカラ」で「モダン」な様相を見せる主屋と西洋館、酒造施設、落ち着いた雰囲気のある庭園などがあり、かつての面影が残る雰囲気ある施設となっています。

横屋酒造と旧佐藤家住宅は敷地約 9,000 m²の中にある佐藤家住宅の主屋など 12 件と酒造施設など 13 件の計 25 件からなり、平成 15 年にその全てが国の登録有形文化財に登録されました。(東日本大震災後に、四棟が被害を受けて取り壊し)

建物群の特徴は、敷地内でお酒の製造から卸、販売まで行い、杜氏やその家族たちが暮らすための住居まであったという点です。

主屋と西洋館の設計は、日本建築の第一人者であり東京駅を設計した洋風建築家「辰野金吾」を師事した建築家「小原友輔」が携わったと伝わっています。

明治末期から大正時代にかけての「ハイカラ」で「モダン」な様相を見ることができます。玄関入り口の踏み石は、一枚岩の花崗岩・天然御影石、玄関の板戸には大きなケヤキの一枚板が使われるなど、その他にも随所にこだわりがびっしり。また、建築を手掛けた気仙大工の技も見られます。

かつて庭師が 4 名いたとされる庭には、紅葉だけでも 28 種類あったとされその豪華さが伺えます。現在も庭は残され静かな空間で憩いのひと時を楽しめる

【出典:千厩まちづくり会社ホームページ】



せんまや街角資料館 (千厩字北方 121-9)



せんまや街角資料館の建物は、国登録有形文化財「旧専売局千厩葉煙草専売所」で、旧東磐井郡、気仙郡の葉煙草栽培の歴史を目にすることが出来る唯一の産業遺構です。

当時の面影を残す事務所の一室は、展示室として使用され、葉煙草の歴史を伝える資料や、千厩町を中心とした地域の歴史資料、生活文化資料が展示されています。

また、千厩や周辺地域の歴史を知ることができるミニ企画展なども開催され、葉煙草や地域の歴史を今に伝えています。

【出典:千厩まちづくり会社ホームページ】

くまがい

熊谷美術館 (千厩字町 143)



熊谷美術館は、千厩町、日野屋本店の熊谷家出身の伯父、故熊谷登久平画伯（元独立美術協会会員）の生誕百年（1901年生）没後33年（1968年）を期し、同画伯の画業を中心として、その一端を「千厩町」及び地域の皆々様にご覧いただき、「町おこし」の一環、地域芸術文化の振興に寄与いたしたく、開設したものであります。

（出典：岩手県観光ポータルサイト いわての旅）

17 ページで熊谷登久平について紹介。

千厩出身の著名な芸術家

くまがい とくへい
熊谷 登久平

独立美術協会会員の洋画家。明治34年(1901)10月2日、岩手県東磐井郡千厩町生まれ。昭和43年(1968年)11月24日、午後4時45分、東京駿河台・日大病院で食道ガンのため死去した。享年67歳。

大正14年中央大学商学部を卒業、学生時代に川端画学校に入り、大正13年修了、昭和元年、白日会展に入選、このころ長谷川利行を識り、親交を結ぶ。昭和2年、白日会会員に推されたが、昭和4年には「気仙沼



風景」「赤松と水車小車」を二科展に出品入選、翌5年には「海」「落日」を出品した。昭和6年、独立美術展第1回展に入選、その後、毎回出品して、昭和8、10年の出品作で海南賞を受賞し、昭和11年独立美術協会会友に推薦され、同16年会員となった。昭和37年以後、41年まで毎年、東京日本橋三越で個展を開催し、同38年にはヨーロッパに旅行した。また、著書に「初等図画練習帳」(5巻)、「熊谷登久平画集(絵と文)」(昭和16年、美術巧芸社)などがある。

作品略年譜

昭和6年「教会堂」「噴水のある風景(浜町公園)」 同7年「風景」「秋」「夏山」「静物」 同8年「画架と雉子」「鳥離室」「月夜」「風景」 同9年「山百合と娘」「菜園」 同10年「夕月」「五月幟」「朝顔」 同11年「七夕」「風景」「雲雀」 同12年「港」「Ballet Cauhaval」「春の朝」 同13年「古都と噴水」「パラシュート」「美しき海」 同16年「太鼓」「笛」 同17年「母子」「鳩」 同22年「十字架のある風景」「修道女」 同23年「聖書頌歌」 同24年「朝の港」「裸婦」 同27年「寿美子の乳房」「うすれ日」 同29年「ふるさと」 同30年「白い町」 同31年「夏去りし海」 同34年「河口」「古き灯台」 同38年「ナイル河」「サワラ砂漠」 同39年「NICEの宿」「斗牛士」 同40年「ローマの碑」 同41年「愛も武力も十字架も(殉教)」 同42年「裸女」「木の間」

【出典:独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所ホームページ】

しらいし りゅういち
白石 隆一

洋画家。明治37年（1904年）東磐井郡千厩町に生まれ。昭和60年（1985年）に80歳で死去。

白石家、屋号「構井屋」の跡継ぎとして育てられた隆一は、千厩尋常小学校を卒業後、旧制一関中学校に入学し、ここで絵に強く興味を持ちます。

18歳で上京して川端画学校で洋画を学び、昭和4年（1929年）に卒業。翌々年から洋画家・清水良雄に師事します。画壇デビューは画学校時代の昭和3年（1928年）。水彩画「田園初秋」で帝国美術院展覧会（帝展）へ初入選を果たしました。以降も帝展や光風会展で入選を重ね、昭和17年（1942年）に光風会会員となりました。



東京で着実に歩を進める隆一でしたが、東京大空襲で自宅も作品も焼失してしまい、昭和20（1945）年5月から千厩で暮らし始めます。戦後の代表作を次々と生み出しますが、さらに画境を深めるためより刺激を受けようと、昭和29年（1954年）に一関に移ります。精力的な制作に加え、後進の指導や美術啓蒙に尽くした隆一は、地元で基盤を置く実力画家として広く知られるようになりました。昭和40（1965）年の欧州旅行から戻ると、再び郷里千厩での生活に戻り、制作に情熱を傾けます。晩年は病と闘いながら絵を描き続けました。

隆一の描く魚は大変人気があり、「魚の画家」とも呼ばれました。しかし魚に限らず、風景や人物、花など、どんなモチーフも写実的に手堅く描く腕が彼にはありました。この「千厩小学校」校舎が建てられたのは、隆一生誕と同じ年。描かれたのは新築移転を控えた昭和48年（1973年）です。自らと同じ70年の歳月を重ねてきた校舎と、校庭に集う子どもたちの姿を、隆一は軽やかなタッチで描いています。

【出典：広報いちのせき 平成21年7月1日号】

こんの てるお
金野 照夫

彫刻家。千厩町千厩字北ノ沢出身〔昭和2年(1927年)～平成27年(2015年)〕。

生家で左官職人とし従事後、彫塑の道に転じ数多くの作品を制作。

東京都保谷市(現西東京市)で居を構え、宮城県気仙沼市にも工房を設け活動。

- 昭和20年(1945年) 白石隆一、高村光太郎に師事
- 昭和24年(1949年) 県立美術工芸学校在学中 上野新制作派展入賞 以降6回入賞
- 昭和26年(1951年) 県立盛岡短大美工科在学中 岩手芸術祭賞受賞
- 昭和26年(1951年) 千厩北ノ沢鎮座 八幡神社奉納 「狛犬一対」制作
- 昭和27年(1952年) 水沢カトリック教会「後藤寿庵像」制作
千厩駅前ロータリー「裸婦像」制作
- 昭和29年(1954年) 武蔵野美術大学彫刻科卒業
- 昭和33年(1958年) 上智大学 「フランシスコ・ザビエル像」制作
日展入賞 以降数回入賞
- 昭和37年(1962年) 創型会奨励賞受賞、創型会同人に推挙され、以降各展入賞多数
- 昭和46年(1971年) 千厩駅前広場 若い女の子の座像「早春譜」制作 写真①
- 昭和55年(1980年) 第29回創型展文部大臣選奨作品「緑樹」制作 写真②
一関市役所千厩支所玄関展示
- 昭和59年(1984年) 気仙沼市鹿折の浄念寺「双鳩像」(創型展入賞)制作
- 昭和59年(1984年) 愛宕児童公園 少年少女像「草笛」制作 写真③
- 昭和60年(1985年) 千厩町名誉町民(元日本大学総長)「永沢滋氏像」制作
一関市役所千厩支所1階ロビー展示 写真④
- 昭和61年(1986年) 「朝風の像」制作 千厩小学校前庭
- 制作年不詳 気仙沼市字松崎柳沢の月光院のアトリエで
初代気仙沼町長「鮎貝盛徳翁銅像」制作
- 制作年不詳 大船渡カトリック教会 「聖マリア像」制作
- ※上記は千厩ロータリークラブ20年の歩み、昌子の小さな美術館(小野寺宏一館長)ホームページ、千厩町合併40周年記念参加「北ノ沢振興まつり記念誌」などを参照し、金野照夫氏の弟・満氏からの聴き取りにより作成。
- 【出典：令和4年4月、朝風の像移設記念式典のしおり】



「朝風の像」 (千厩市民センター入口 令和4年4月 旧千厩小学校から移設)



「早春譜」 (千厩駅前)



「草笛」 (愛宕児童公園)



「緑樹」 (一関市役所千厩支所)



「永沢滋氏像」 (一関市役所千厩支所)

千厩町（千厩、小梨、奥玉、磐清水）の産業

農業の概要

昭和の時代は（昭和36年の農業基本法施行以降）

昭和37年(1962年)の千厩町町勢要覧では千厩町の産業について、「千厩町は農業を主産業とする田園都市であるが、製造業においても繊維工業、木材工業が盛んであり、なかでも片倉工業千厩工場は、自動繰糸機その他の近代設備を整え、欧米各国向け生糸2200俵の生産をあげ、また東山松を主原料とする上山製紙工場は、年間100万超の生産能力を有し、逐年設備の近代化を行い、量産化につとめ、遠く沖縄へも輸出している。そのほか、経儀木、木工業などが盛んである。

また、面積においても日本一を誇る葉タバコは、当地方で最も伝統ある特産物として日本専売公社千厩支局管下において一億円に達せんとしており、さらに、当町は近時畜産業が盛んになり、特に農業基本法の示す成長産業としての酪農、養豚、養鶏が急激に盛り上がっている。コールドセンター、と畜場、養鶏センターなどを設置してこれらにたえ、さらに農業改善事業の推進を図っている。」と概況をまとめている。

【出典：千厩町史第5巻、現代編】

平成の時代は

平成9年(1997年)の千厩町町勢要覧では、「農業は町の基幹産業として私たちの生活を支えています。かつては水稻を中心に、養蚕が盛んでしたが、現在は水稻と畜産を中心に、野菜、花き、果樹などの高収益作物を組み合わせた複合化が進んでいます。特にトマトは、若い農業後継者がハウスや露地栽培に取り組み、市場でも買い評価を得て取引さされています。畜産は、酪農のほか和牛の繁殖経営（子牛の生産）が盛んです。子牛は「いわい牛」の銘柄で全国に出荷され、高い評価を得ています。」と記載されています。

千厩の特産物であり、主産物でもあった葉タバコや養蚕が、需要の落ち込みとともに減少し、かわって、畜産、果樹、野菜などへの選択的拡大に進行している様子がうかがえる。

【出典：千厩町史第5巻、現代編】

令和の時代は

平成17年の市町村合併後、旧千厩町の農林業について取りまとめた資料は公表されていない。このため、一関地域(一関市と平泉町)の農林業について取りまとめた資料による概要とする。

農家戸数は令和2年時点の過去5年間で11.3%減少し、特に兼業農家の減少が著しい。耕地面積は前年比0.5%減少。耕地のうち水田比率は68.6%。

農業産出額は。米が最も多い。

野菜はトマト、なす、ピーマン、きゅうりなどを中心に栽培され、果樹はりんご、花きは小ぎくが中心となっている。

畜産のうち、肉用繁殖経営は、飼養戸数・頭数とも減少傾向にある。酪農は飼育頭数が減少している。豚及び鶏は千厩地域では皆無。

令和の時代は集落営農組織の経営多角化の取り組みで、法人化が進んでいる。ま

た、大規模稲作経営の取り組みとして、大区画ほ場での大型機械など先進技術の取入れがみられる。

和牛は一関地域統一ブランド「いわて南牛」の評価が高まり、東京市場を中心に出荷されている。小ぎくは東北有数の産地を形成、トマト、ピーマン、なす、きゅうり、ミニトマト等が園芸主力品目となっている。

【出典：岩手県ホームページ、県南広域振興局農政部一関農林振興センター 一関地域の農
林業資料】

商業の概要

千厩町は古くから馬や養蚕・葉たばこの産地として知られた。活発な交易の場としても発展し、そこから宿場町が形成され、商店街へと変容してきた。

しかし、消費生活の多様化や交通網の整備などから、新たな商店街の形成が求められ、現在各商店街では近代化に向けた事業に取り組んでいる。夜市の開催などで活気ある商店街づくりと魅力ある町づくりを目指している。

さらに沿岸部と内陸部を結ぶ交通の要衝となる国道 284 号沿いには、大きな駐車場を完備した郊外型スーパーマーケットや専門店、コンビニエンスストアなどが建ち並び、町内外から多く買い物客を集めている。

千厩には、東栄町、四日町、本町、新町、愛宕の五つの商店街があるが、郊外に出店した大型店は 7 店舗で、その売り場面積は町内全体の 6 割以上を占めている。このため、町としての集客力は依然として衰えを見せていないが、中心商店街をはじめとする中小商店が受ける影響は非常に大きい。

【出典：千厩町史第 5 巻、現代編】

地場産業の概要

製糸業の片倉製糸株式会社千厩工場は、昭和 35 年(1960 年)から岩手県唯一の製糸工場として稼働していたが、その後、原料繭の生産が極度に減退し、企業の立地が困難となり、昭和 60 年(1985 年)閉鎖された。

製造業では、昭和 23 年(1948 年)創業の製材・住宅資材販売の永澤木材株式会社、昭和 25 年(1948 年)創業のトイレットペーパー等を主力製品とする上山製紙株式会社、昭和 50 年(1975 年)創業の貴金属のリサイクル事業を展開するニッコーファインメック株式会社などがある。

なお、酒造業の横屋酒造株式会社は大正元年(1912 年)の創業で代表銘酒「玉の春」などで業務を拡大してきたが、平成 17 年に破産。岩手銘醸株式会社(奥州市前沢)に事業に引き継いだ。

【出典：千厩町史第 5 巻、現代編】

誘致企業・進出企業の概要

誘致企業法及び農村地域工業導入促進法などの施行により、昭和40年代から平成12年までに誘致した企業は次のとおりである。

No.	企業名	立地年	操業年	摘要
1	アツギ白石(株)千厩工場	S44	S44	現在は撤退
2	千厩工業(株)	S49	S49	現在はミドリ千厩工業(株)で操業中
3	スタンダード通信機(株)	S50	S50	現在は千厩マランツ(株)で操業中
4	ソニーイーエムシーエス(株)千厩テック	S52	S52	現在は撤退
5	大黒電線(株)千厩工場	S59	S59	現在はインテグラン(株)岩手工場で操業中
6	(株)日ピス岩手	H1	H2	引き続き操業中
7	共栄フード(株)東北工場	H3	H3	引き続き操業中

なお、進出企業は昭和45年から平成6年まで、(有)ファッション貴、(有)千厩電子など10社あったが、現在も操業中は同社など数社となっている。

【出典：千厩町史第5巻、現代編】

千厩町の産業統計の主な項目と数値

一関市が公表している産業統計の主な項目と数値のうち、千厩町にかかるものは次のとおり。

千厩町(千厩、小梨、奥玉、磐清水)の事業所

産業別事業所、従業者数(民営事業所)

平成28年経済センサス(令和3年版 一関市統計要覧より)

※太字はベスト5

区分	事業所数	従業者数	区分	事業所数	従業者数
総数	614	4,336	金融業、保険業	7	74
農林漁業	9	147	不動産業、物品賃貸業	23	73
鉱業、採石業、砂利採取業	1	20	学術研究、専門技術サービス業	18	58
建設業	66	487	宿泊業、飲食サービス業	72	330
製造業	43	967	生活関連サービス業、娯楽業	75	265
電気、ガス、熱供給、水道業	2	13	教育学習支援業	13	83
情報通信業	3	7	医療、福祉	40	441
運輸業、郵便業	15	249	複合サービス事業	4	19
卸売業、小売業	177	920	その他	46	183

千厩町(千厩、小梨、奥玉、磐清水)の農業

令和2年農林業センサス(令和3年版 一関市統計要覧より)

区分	総数	販売農家	自給的農家
農家数	933	454	479

※ベスト3は太文字

区分	総数	0.3ha 未満	0.3～ 0.5ha	0.5～ 1.0ha	1.0～ 1.5ha	1.5～ 2.0ha	2.0～ 3.0ha	3.0～ 5.0ha	5.0～ 10.0ha	10.0ha 以上
経営耕地面積 規模別経営体 数	457	15	105	161	68	42	28	23	10	5

区分	総数	稲	麦類	雑穀	いも類	豆類	工芸 農作物	野菜類	花き類 花木	その他
作物別作付 (栽培)面積	19,079a	13,954a	72a	-	68a	204a	648a	2,163a	1,021a	927a

【注】工業並びに商業の産業中分類別、事業所数等については、市内地域別の数値は公表されていない。

千厩の春夏秋冬（イベントなど）

千厩ひなまつり 2月～3月 千厩酒のくら交流施設ほか



福よせ雛プロジェクト
千厩市民センター



桜の千厩 ライトアップほか 4月 千厩市民センターほか



せんまや夜市 4月～10月 毎月第2土曜日



千厩夏まつり 7月 千厩商店街



アンブレラスカイせんまや 7月～8月 千厩市民センター



ひまわりプロジェクト 8月～9月 駒場地内



まちづくり案山子大会 10月 千厩市民センター



みちのくせんまや赤ちゃん相撲大会 10月 愛宕神社神楽殿



せんまやイルミネーション 12月～1月 千厩市民センター



千厩光のページェント 12月 愛宕児童公園



千厩地区まちづくり協議会

事務局 一関市千厩町千厩字館山 50

一関市千厩市民センター内

電話：0191-52-2309 FAX：0191-53-2565

ホームページ <http://www.senmachi.com>